

深まる体制的危機と帝国主義戦争の接近の下 燃え広がる反攻戦を社会主義革命の大道へ

革命の旗

共産主義者同盟(革命の旗)
中央機関紙

第9号

1980・2・20
(毎月5日、20日発行)

定価 100円

発行人 北沢晋社

発行所 沢流赤流社

連絡先 東京千歳ビル

定購 年間(送料共) 2500円

印刷 3000部

八〇年代の幕開けを刻印したソ連のアフガニスタン軍事侵略と、米帝・日帝・西欧諸帝の軍事的対抗の強化とそれに連動したソ連のバックは、まさしく戦争と革命的激動の到来を告げたと示した。国内的にも、日帝の体制的危機の深まりの中で、「反動と戦争の革命体制」を呼号する支配階級に対して、労働者階級・人民の反抗の烽火も、次第に燃え広がらうとしている。今、最も必要な事は、共産主義者・先達の労働者を単一のマルクス・レーニン主義党に統合するための論議を大胆に進め、社会主義と労働運動の結合を更に強め、あらゆる舞台を利用して、日帝打倒・米帝追放・プロ独・社会主義革命の巨万の隊列を創出していくことである。

右翼的「労働統一」に拍車

「労働貴族」どもの「八〇春闘」

「八〇春闘」に際して、日経連はかつて例年発した桜田号令の如きものも発せず、全くの平静を装っているように見える。しかし、資本家階級は、「八〇春闘」が総評・同盟・J・C・総連を軸とする労働貴族どもによって、何の波乱もなく、資本家階級の利害と秩序に沿って運ばれていくことに、大いなる満足と安心を示している。事実、これら労働貴族は、例えば「春闘再構築」や「フルレ」などの「春闘」を唱える総評でも、わずか八〇%要求基準という物価上昇率

日帝の当面する環 帝国主義戦争準備と連合政権——右翼的「労働統一」の本質

日帝の体制的危機が一段と深まる中で、資本家階級はそれにあわせて、構造の転換が、今、財政危機・エネルギー危機・市場競争激化に直面して矛盾を一層深め、その強行突破のために、労働者階級と被搾取大衆に未曾有の犠牲と災禍の強制「耐乏」を強いる。ここに、体制的危機突破のための精強の官僚軍の編成である。それに戦後ブルジョア民主主義的「労資関係」を規定した法制の大改変と戦術的労働者パージによる「職場安定帯」の再強化と、揺らぎ始めた差別分析

労働者階級の戦略的総反抗へ 社会主義と労働運動を結合する一大戦場に転化せよ!

こういふ潮流との路線闘争を組織しながら革命的労働者の進出と力をかちつづけていくために、われわれは次の五つの指針を呼びかけ、実行していかねばならない。この間、中小造船・未組織労働者の組合結成と争議団数は、増大の一途をたどり、また造船部門でも全造船の闘いは、佐伯分會をはじめ中小造船へと次第に拡大し、同盟最右翼として、名高きS・K労働者会の闘いの噴出へと連なっている。また、西の田中機械・南大阪、東のベトリ・沖電、北の本山の闘いの如く、資本のスクラップアンドビルトによる人員削減・合理化・倒産首切り・活動家処分の、刑事弾圧の攻撃に対する不屈の持久戦を堅持し、また官公労にあっても、昨越年闘争を闘いぬき、処分攻撃と民同の裏切りにより二重対峙する全通労働者の戦闘力、「行政合理化」・ヤミ給与・キャンペーン」に抗する自治体労働者の闘いの開始と、戦場が開かれている。

労働者階級の戦略的総反抗へ 社会主義と労働運動を結合する一大戦場に転化せよ!

また第四インターは「労働運動・人民闘争の戦術的推進」を、現代修正主義の和解、その戦術的翼としての闘いに結びつけている。右翼的「労働統一」をめざして、宮本一派の「統一労働組」を「総評下労働者」に獲得するために共同して闘おう」と呼びかける。しかし、彼らは「統一労働組」の右翼の本質について一言も述べないばかりか、「民主連合政権」を「労農政権」として押し上げるために共に闘おうと呼びかけているのである。これは宮本一派の破産と動搖をおいかくし、むしろ破産と動搖を救済するものでしかない。それは先進的労働者を思想的・政治的に武装解除し、プロ独を反米反独の民主政府、社会主義を資本主義の民主的改良に歪曲することである。

労働者階級の戦略的総反抗へ 社会主義と労働運動を結合する一大戦場に転化せよ!

第三は、第一、第二の闘いにおいてとくに下層・中間層・未組織の労働者の闘いの組織化に力をそそぎ、そこに拠点をつき、その戦闘力を鍛えつつ、当面、せめぎあいの集中点となっている官公労働者の闘いの闘いを結合させ、その同盟組合的な狭隘さの改革を促し、更に、独占資本と労働貴族の全重心をかけた重工業・民間独占の左翼少数派の抗戦・拡大・全面化と結合させ、階級的統一をつくりだしていくことである。同時に、人民闘争の主導者として、勤労農民、被搾取人民、被差別大衆との団結を強め、社会主義統一戦線の条件を拡大していくことである。この両者を表裏一体として、右翼的「労働統一」の布陣に対抗していかねばならない。



2月13日 全国から1万余の結集で開かれた緊急中央集会(日比谷野音)

東京高裁(四ッ谷)へ、徹底糾弾の連続闘争に決起せよ! 2・7 狭山再審棄却徹底糾弾!

(三面に報告および声明)

(二面に続く)

帝国主義と社会主義の大分裂 ——プロ独・社会主義革命の旗を前面に掲げよ!

このような現実には、労働者階級と社会主義の大分裂へと移行させ、動労被搾取人民に、帝国主義への闘争の中心に、プロ独・社会主義革命の旗を前面に掲げよ!

日共の「統一労働組」の右翼的セクトの本質

このような観点からみると、現代修正主義の日共宮本一派は、どうであろうか? 彼らの基本戦略である「民主連立政権」路線は体制的危機の深まりと共に破産し、今では「体制的危機突破・帝国主義戦争準備」へと、その環である連合政権「右翼的「労働統一」」から排除され、かつての地位を奪って、危機を急速に深めている。この危機感に駆られて、彼らは「統一労働組」なるものを打ち出した。だが破産したのは彼らの路線であり、「財政の民主的配分」独占の民主的規制による住民福祉、「行政機構の民主化」中「小資本味方論」、「人民の議会主義」等の反動的議論であり、「教師聖職、自治体労働者」全体の奉仕者論、天皇制「民族宗教論」まで持ち出し、一切を選挙の地盤づく

社会愛国主義に転落した「毛派」の階級協同主義

他方、社会愛国主義に転落した「毛派」潮流は「反民族統一戦線」のために、右翼的「労働統一」を推進する。これは宮本一派の破産と動搖をおいかくし、むしろ破産と動搖を救済するものでしかない。それは先進的労働者を思想的・政治的に武装解除し、プロ独を反米反独の民主政府、社会主義を資本主義の民主的改良に歪曲することである。

現代修正主義の戦術的翼へ向かう第四インター

また第四インターは「労働運動・人民闘争の戦術的推進」を、現代修正主義の和解、その戦術的翼としての闘いに結びつけている。右翼的「労働統一」をめざして、宮本一派の「統一労働組」を「総評下労働者」に獲得するために共同して闘おう」と呼びかける。しかし、彼らは「統一労働組」の右翼の本質について一言も述べないばかりか、「民主連合政権」を「労農政権」として押し上げるために共に闘おうと呼びかけているのである。これは宮本一派の破産と動搖をおいかくし、むしろ破産と動搖を救済するものでしかない。それは先進的労働者を思想的・政治的に武装解除し、プロ独を反米反独の民主政府、社会主義を資本主義の民主的改良に歪曲することである。

労働者階級の戦略的総反抗へ 社会主義と労働運動を結合する一大戦場に転化せよ!

こういふ潮流との路線闘争を組織しながら革命的労働者の進出と力をかちつづけていくために、われわれは次の五つの指針を呼びかけ、実行していかねばならない。この間、中小造船・未組織労働者の組合結成と争議団数は、増大の一途をたどり、また造船部門でも全造船の闘いは、佐伯分會をはじめ中小造船へと次第に拡大し、同盟最右翼として、名高きS・K労働者会の闘いの噴出へと連なっている。また、西の田中機械・南大阪、東のベトリ・沖電、北の本山の闘いの如く、資本のスクラップアンドビルトによる人員削減・合理化・倒産首切り・活動家処分の、刑事弾圧の攻撃に対する不屈の持久戦を堅持し、また官公労にあっても、昨越年闘争を闘いぬき、処分攻撃と民同の裏切りにより二重対峙する全通労働者の戦闘力、「行政合理化」・ヤミ給与・キャンペーン」に抗する自治体労働者の闘いの開始と、戦場が開かれている。

労働者階級の戦略的総反抗へ 社会主義と労働運動を結合する一大戦場に転化せよ!

また第四インターは「労働運動・人民闘争の戦術的推進」を、現代修正主義の和解、その戦術的翼としての闘いに結びつけている。右翼的「労働統一」をめざして、宮本一派の「統一労働組」を「総評下労働者」に獲得するために共同して闘おう」と呼びかける。しかし、彼らは「統一労働組」の右翼の本質について一言も述べないばかりか、「民主連合政権」を「労農政権」として押し上げるために共に闘おうと呼びかけているのである。これは宮本一派の破産と動搖をおいかくし、むしろ破産と動搖を救済するものでしかない。それは先進的労働者を思想的・政治的に武装解除し、プロ独を反米反独の民主政府、社会主義を資本主義の民主的改良に歪曲することである。

労働者階級の戦略的総反抗へ 社会主義と労働運動を結合する一大戦場に転化せよ!

また第四インターは「労働運動・人民闘争の戦術的推進」を、現代修正主義の和解、その戦術的翼としての闘いに結びつけている。右翼的「労働統一」をめざして、宮本一派の「統一労働組」を「総評下労働者」に獲得するために共同して闘おう」と呼びかける。しかし、彼らは「統一労働組」の右翼の本質について一言も述べないばかりか、「民主連合政権」を「労農政権」として押し上げるために共に闘おうと呼びかけているのである。これは宮本一派の破産と動搖をおいかくし、むしろ破産と動搖を救済するものでしかない。それは先進的労働者を思想的・政治的に武装解除し、プロ独を反米反独の民主政府、社会主義を資本主義の民主的改良に歪曲することである。

労働者階級の戦略的総反抗へ 社会主義と労働運動を結合する一大戦場に転化せよ!

また第四インターは「労働運動・人民闘争の戦術的推進」を、現代修正主義の和解、その戦術的翼としての闘いに結びつけている。右翼的「労働統一」をめざして、宮本一派の「統一労働組」を「総評下労働者」に獲得するために共同して闘おう」と呼びかける。しかし、彼らは「統一労働組」の右翼の本質について一言も述べないばかりか、「民主連合政権」を「労農政権」として押し上げるために共に闘おうと呼びかけているのである。これは宮本一派の破産と動搖をおいかくし、むしろ破産と動搖を救済するものでしかない。それは先進的労働者を思想的・政治的に武装解除し、プロ独を反米反独の民主政府、社会主義を資本主義の民主的改良に歪曲することである。

労働者階級の戦略的総反抗へ 社会主義と労働運動を結合する一大戦場に転化せよ!

また第四インターは「労働運動・人民闘争の戦術的推進」を、現代修正主義の和解、その戦術的翼としての闘いに結びつけている。右翼的「労働統一」をめざして、宮本一派の「統一労働組」を「総評下労働者」に獲得するために共同して闘おう」と呼びかける。しかし、彼らは「統一労働組」の右翼の本質について一言も述べないばかりか、「民主連合政権」を「労農政権」として押し上げるために共に闘おうと呼びかけているのである。これは宮本一派の破産と動搖をおいかくし、むしろ破産と動搖を救済するものでしかない。それは先進的労働者を思想的・政治的に武装解除し、プロ独を反米反独の民主政府、社会主義を資本主義の民主的改良に歪曲することである。

労働者階級の戦略的総反抗へ 社会主義と労働運動を結合する一大戦場に転化せよ!

また第四インターは「労働運動・人民闘争の戦術的推進」を、現代修正主義の和解、その戦術的翼としての闘いに結びつけている。右翼的「労働統一」をめざして、宮本一派の「統一労働組」を「総評下労働者」に獲得するために共同して闘おう」と呼びかける。しかし、彼らは「統一労働組」の右翼の本質について一言も述べないばかりか、「民主連合政権」を「労農政権」として押し上げるために共に闘おうと呼びかけているのである。これは宮本一派の破産と動搖をおいかくし、むしろ破産と動搖を救済するものでしかない。それは先進的労働者を思想的・政治的に武装解除し、プロ独を反米反独の民主政府、社会主義を資本主義の民主的改良に歪曲することである。

労働者階級の戦略的総反抗へ 社会主義と労働運動を結合する一大戦場に転化せよ!

また第四インターは「労働運動・人民闘争の戦術的推進」を、現代修正主義の和解、その戦術的翼としての闘いに結びつけている。右翼的「労働統一」をめざして、宮本一派の「統一労働組」を「総評下労働者」に獲得するために共同して闘おう」と呼びかける。しかし、彼らは「統一労働組」の右翼の本質について一言も述べないばかりか、「民主連合政権」を「労農政権」として押し上げるために共に闘おうと呼びかけているのである。これは宮本一派の破産と動搖をおいかくし、むしろ破産と動搖を救済するものでしかない。それは先進的労働者を思想的・政治的に武装解除し、プロ独を反米反独の民主政府、社会主義を資本主義の民主的改良に歪曲することである。

そして、これらの闘いを堅持・拡大・強化し、一層広範な労働者大衆を、資本と労働貴族に対する端緒的な反抗戦へと、大規模にひき入れていく戦場にしなければならぬ。すなわち、「職場安定帯」を揺り崩す闘いを基礎としつつ、同時に地域的闘いへと押し上げ、結びつけると同時に、産別横断の共同した闘いをつくり出し、もっと重層的な全国的闘いへと押し上げることである。

第一は、この経済闘争の発展の中に、三塚闘争・狭山闘争・日朝人民連帯・反戦闘争をもちこみこれらの諸闘争への決起と進出をつくり出し、その政治的・軍事的発展を促すことである。昨秋、三里塚闘争をはじめ、これらの人民闘争の新たな高まりのうねりがつくりだされ、多くの労働者を政治的にめざめと、新たな政治生活の一步へとひき入れている。これを徹底的に拡大・促進し、資本家階級とその独裁権力、労働貴族・社会愛国主義者との政治的対立・闘争のより広い、より鋭い舞台へと導き入れ、政治的教育・訓練を強めなければならない。

第三は、第一、第二の闘いにおいてとくに下層・中間層・未組織の労働者の闘いの組織化に力をそそぎ、そこに拠点をつき、その戦闘力を鍛えつつ、当面、せめぎあいの集中点となっている官公労働者の闘いの闘いを結合させ、その同盟組合的な狭隘さの改革を促し、更に、独占資本と労働貴族の全重心をかけた重工業・民間独占の左翼少数派の抗戦・拡大・全面化と結合させ、階級的統一をつくりだしていくことである。同時に、人民闘争の主導者として、勤労農民、被搾取人民、被差別大衆との団結を強め、社会主義統一戦線の条件を拡大していくことである。この両者を表裏一体として、右翼的「労働統一」の布陣に対抗していかねばならない。

第四は、以上の闘いの舞台において、現代修正主義の宮本一派、社会愛国主義の階級協同に転落した「毛派」潮流、現代修正主義の戦術的翼へ純化しつつある、第四インター」に対する批判的闘争を組織し、我々が「革命の旗」第四号で掲げ、新年号で「層深くつき出した」経営参加・連合政権によるプ

単一のマルクス・レーニン主義党創建のための論戦

第二次ブンドの無総括主義と急進民主主義の縮少再生産をたどる烽火派を批判する(上)

はじめに

われわれは当初、このシリーズをプロ革派批判から開始することを計画した。しかし、今ではそれは、現状にあまりそぐわないものとなり、むしろ、烽火派に、断固たる反論を加えることが時宜に適したようになっている。...

プロ革派との「連合」とその破産

だがそのためにまず、プロ革派の現在の路線と烽火派が「体系化」した路線とを対比して簡潔に示しておくことが、読者にとってわかりやすいものとなるであろう。...

戦争の要素の増大と国際主義的態度

烽火派は、われわれの、反ソ反米反覇権の国際主義をとりえて、「反覇権戦争」を世界革命の主任任務とし、「戦後平和の擁護」を世界プロレタリアートの第一義の任務とする。...

革命情勢の接近にこたえる 反弾圧戦線の確立と任務

弾対部アピール

すべての読者のみなさん、今日、ブルジョア国家権力の肥大化は、最も直接的に暴力装置の強化としてあらわれている。死刑、長期投獄、更には三里塚裁判や成田治安立法、有事立法策動としてかけられる攻撃が、一方で、リムパック80にみられる端的な戦争準備、戦争体制の確立として、日帝にとっての不可避の、唯一の延命の道となっている。...

ソ連論での動揺と超帝国主義論

こうした根拠には、彼らのソ連論での動揺、折衷主義、超帝国主義論が存在している。彼らは、つい半年前までは、ソ連を「民族解放社会主義勢力」に対する武装反革命であり、帝国主義の世界支配を支え、補完するものであり、帝国主義列強間の争闘にけり込んで、その一要素をなすもの」というようにとらえていた。...

烽火派の新たなウツキイ主義の本質

こういふ見解と結びつき、かつて増幅しているのは、烽火派が帝国主義戦争に反対し、その戦争の性格、目的、その対象との関係で侵略戦争と反侵略戦争とを区別し、バクローはしても、それを戦争の社会的、経済的根源と国家の階級的性質にまで結びつけて暴論でさえする。...

権力による監禁・スパイ強要弾劾

一月十八日、三里塚に於て、野戦病院に常駐する救護連絡センター運営委員・朝田しげる氏への監禁・スパイ強要事件が発生した。この事件は、この権力犯罪を、満腔の怒りをもって弾劾する。...